

<p>研修等名</p>	<p>1. 教職員研修（在留資格研修・就労ビザ等研修）</p>
<p>開催日時</p>	<p>平成27年11月5日（木） 13:00～16:00</p>
<p>開催場所</p>	<p>九州英数学館</p>
<p>次第・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 ・第1部 講義「出入国管理行政について」 13:05～14:05 講師：福岡入国管理局 上席入国審査官 中村 真二 氏 ・第2部 講義「留学生の確実な就職まで」 14:15～14:55 講師：専門学校東京国際ビジネスカレッジ 赤坂 賢治氏 ・第3部 講義「行政書士による就労ビザ講座」 15:00～15:40 講師：行政書士 木村秀作 氏
<p>受講者 (参加者)数</p>	<p>学校関係者 74名</p>
<p>実施状況</p>	<p>《第1部 出入国管理行政について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡入国管理局管内の留学生数は東京について全国2番目に多い。在留カードの発行・変更等、手続きには時間もかかる。在留資格変更・在留期間更新許可・資格外活動許可申請について、受け取り件数5件以上の場合は前日17時までには事前電話連絡を要し、一回40件までとなっている。パスポートと在留カードについては申請の際は案件順、受け取りの際は番号順に並べて提出する。 ・出席率が80%未満の学生については、理由書と診断書等が必要。所在不明者は随時報告が必要だが、その後除籍など、受け入れ終了の届出が必要。資格外活動許可は全てのアルバイトの時間が週28時間以内という規定。違反が見つければ、最低でも厳重注意、強制送還の対象にもなる。説明会でも十分に伝えて欲しい。 ・就職のための特別活動は、在学中から活動を行っていることが条件。 ・長期休暇等に伴う再入国は在留期間であれば、みなし再入国制度によってパスポートと再入国カードの提示で可能。また在留期間変更申請期間中であれば、2ヶ月は猶予されるが、在留カードの受け取りは土日に出来ないため、急な帰国の場合など、在留期限の確認を指導してほしい。 ・日本語教育期間の変更など、コースの変更については病気や怪我など、「相当の」理由が必要。変更の必要性については詳細の説明が必要。各種申請には電子届出システムの利用も可能。事前に利用者登録が必要。事前にパスワードを決めておくとよい。 ・在留資格認定証明書発行件数は平成23年3000件→平成27年8000件。 【国籍別傾向と課題】 ネパール：九州での申請の半数以上。資格外活動違反（28時間以上のアルバイト）、失踪、難民申請が多い。 ベトナム：万引き。生活習慣の違いによるものかもしれないが社会に出る前に指導が必要。失踪も多い。 中国：2011年以降は減少傾向にあるが、ネット詐欺などの犯罪に関わるケースが増えている。

<p>実施状況 (続き)</p>	<p>《第2部 留学生の確実な就職まで》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の就職は一般の学生と同じ。採用の内定が出て、留学生にとっては就労ビザの申請が難関。専門学校卒業の専門士資格では、申請時に業務との関連性を立証しなければならない。 ・知人の会社や紹介での就職、就職紹介会社を利用した就職などは注意を要する。現在海外進出している会社であればビザが下りる可能性は高いが、これから進出する会社の場合は証明書類を揃えないと厳しい。 ・留学生に求められること：日本語（日本語検定N1レベル）と英語（TOEIC 650～）+専門性（資格）。情報処理系の資格は有利。情報処理関連であれば自国での資格も有効である。 ・在留資格は「技術・人文知識・国際業務」として活動内容が制限されている。所属機関のカテゴリによって申請に必要な書類が定められている。申請の際は慎重に書類を準備すること ・ケース1：複数店舗経営のレストランへマーケティング業務担当として申請（ネパール人）→許可。 ・ケース2：知り合いの美容室へ経理担当として申請（中国人）→不許可。 ・ケース3：海外工場をもつ部品製造メーカーへ貿易業務担当として申請（ベトナム人）→許可。 <p>《第3部 行政書士による就労ビザ講座》</p> <p>【就労ビザの種類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入管法の基本的な考え方 ・在留資格の種類：就労不能資格（留学等、収益を上げることはできない）。業務限定就労可能資格（留学の際の就職は「技術・人文知識・国際業務」を使うことが多い） ・「技術・人文知識」の在留資格要件について、大学卒の場合は専攻科目と従事する業務との関連性について比較的緩やかに判断されるが、専門学校卒の場合には厳格な関連性が要求される。大手の企業であっても、現場の業務担当では許可されない。 <p>【在留資格：家族滞在について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定の資格を持って在留する者の扶養を受ける配偶者、又は子として行う日常的な活動。近年、在留資格認定証明書の取得が難しくなっている。
<p>アンケート 結果</p>	<p>別添のとおり</p>
<p>成果と課題・ 今後に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースバイケースによる在留資格の説明があり、理解しやすかった。また、留学生が知りたいと思っている情報についても理解が進んだ。 ・当初予定していた研修時間より長くなり、講師との事前打ち合わせ時に入念な確認が必要だと感じた。

研修等名	2. 留学生進学体験セミナー	
開催日時	平成27年11月28日(土) 10:00~12:30	
開催場所	福岡国土建設専門学校	
実施分野	測量土木	
参加者数	19名(申込数31名) 国別:ネパール13名 ベトナム2名 バングラデシュ1名 回答無3名	
実施内容 (時系列で 記載)	実施時間帯	内 容
	10:00~10:10	あいさつ
	10:10~10:40	国際環境科案内
	10:50~11:30	測量技術情報科案内
	11:30~11:40	休憩
	11:40~12:10	学校案内
	12:10~12:30	あいさつ・アンケート
受講者の状況	測量についての重要性・必要性を理解し、卒業後実際に携わる仕事としての魅力など感じてもらえたと考える。	
成果	在校生の参加により参加者と教員とのコミュニケーションもよくとれていた。屋外での測量体験も組み込んで、カリキュラム等、よく理解してもらえた。卒業後実際に携わる仕事として魅力を感じてもらえたのではないかと考える。	
課題	申し込み31名、参加19名だったが、欠席連絡者は1名のみであった。残り20名連絡がなかったのが、今後の課題である。	
総括	専門技術取得に興味ある学生が集まったせいか、内容に関する満足度は高かった。一方で、申込31名に対して参加者が19名とほぼ60%の参加率で、次回以降、参加までのフォローの強化が課題と考える。	
アンケート 結果	別添のとおり	

<p>研修等名</p>	<p>3. 産学連携セミナー</p>
<p>開催日時</p>	<p>平成27年12月3日(木) 13:00~16:00</p>
<p>開催場所</p>	<p>福岡ガーデンパレス3階 阿蘇の間(福岡市中央区天神4-8-15)</p>
<p>次第・内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 ・第1部 講義「活躍する外国人人材の現場」 13:35~14:25 講師：(株)ワールドインテック 経営開発本部ソリューション室 綿貫 恭一氏 ・第2部 講義「就職活動と日本で働くことについて」 14:35~15:25 講師：(株)オーレック ダルメンドラ・クマル氏 ・第3部 情報交換会・質疑応答 15:30~16:00
<p>参加人数</p>	<p>・学校関係者 32名 ・企業関係者 11名</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 留学生就職アシスト事業留学生委員会委員長 中村 登氏 本事業は文科省の委託により留学生の就職支援を行う事業である。福岡ではネパールなど非漢字圏の留学生が増えており、企業も人材を必要としている。産業界との連携を図り、福岡で留学生の就職が叶うよう支援していく。 《第1部 「活躍する外国人人材の現場」》 (1) 外国人留学生の就職状況 日本は総人口減によって、当然労働力人口も減少している。国策として2020年には留学生を30万人受け入れ、外国人を積極的に雇用していく方針。具体的には外国人へ専門的技術分野での就業支援や適性就労・安定雇用に向けた取り組みを行っていく方針である。 しかしながら外国人留学生の就労の現状は、65%が日本での就業を希望しているにもかかわらず、25%の就職率に留まっている。 平成26年は13,000人弱が就業しているが、その学生別構成比では大卒・大学院卒が大きな割合を占めており、専修学校卒は2,130人で16.4%という現状である。さらに日本語学校が増加しているため、今後は専修学校卒が増加していくとみている。 業種別の就業状況では、製造業と商業・貿易業が多い。事業所の規模別では、全体の約4割の約5,300名が1人~50人以下の中小企業に就業している。ついで多いのは従業員2,000名以上の大企業となっている。 地域別では福岡県への就業は全体の3.7%、475名。 職務内容別では約25%が翻訳・通訳業であるが、同程度に当たる約3,000人は販売・営業職であり、専門学校卒業でも就業が可能な分野である。 (2) ワールドインテック社、ほか採用事例紹介 ①ワールドインテック社で今春採用されたベトナム人CAD設計者 国内大手内装設計会社へ配属。企業のニーズは、自社のベトナム進出計画のため現地で将来事業の要となる人材。アルバイトで培われた日本語コミュニケーション能力と、挨拶や時間厳守などの基本的なビジネスマナーが採用の決め手となった。 ②今年内定を出したIT系専門学校卒のスリランカ人(25歳) WEBのアプリ開発やプログラミングのスキルも持つ。日本語能力はN1、TOIEC900以上と大変優秀である。現在は大手外資系企業にてインターンシップに参加している。

- ③来春ワールドインテック社に入社予定のネパール人（29歳）
CAD製図専門学校卒。英語・日本語・ヒンズー語に長け、コミュニケーション能力が高い。母国では家族が設計事務所をしていた。説明会時に積極的に質問し、好印象であった。
- ④食品会社に経理担当として採用決定されたネパール人（24歳）
専門学校卒。日本語・英語が堪能。パソコンと簿記の資格を取得したことが、採用の決め手となった。

(3) 現状の課題

①3つのギャップ

就職者を伸ばすため、第一の課題は、日本語能力への認識のギャップをなくすことである。企業が求める日本語能力は、検定ではNもしくは、N1であり、ビジネスレベルである。検定等級なしの日常会話レベルの日本語では、書類選考をパスできない。第二の課題は、希望職種へ就業したあと、実際の業務内容とのギャップである。留学生の希望は海外業務や貿易業務、経営管理業務が上位を占めるが、実際にはすぐに希望業務へは配属されない。

第三の課題は、キャリアパスに対する認識のギャップである。日本企業の多くは、長期のジョブローテーションによるキャリアアップを行っている。日本の企業文化や価値観を留学生は学んでおく必要がある。

②留学生、学校の課題

就職活動のやり方がわからない、企業説明会への不参加等、留学生の就職活動に対する重要性の認識が不足しており、またそのノウハウも不十分である。

③企業側の問題

依然として海外で事業展開ができていない、若しくは計画が遅れている。また、外国人留学生の採用基準がない、受け入れ体制の未整備、既存従業員の認識不足など、企業内部の体制が整っていない。

(4) 今後の方策提言

キャリア教育や就職活動のノウハウ指導、挨拶や電話応対など実践教育など、学校と留学生が一体となって、早期に就職活動の準備を行う。

就職のための日本語の訓練の一つとして、コンビニエンスストアなどの接客業のアルバイトを経験し、日本語でのコミュニケーション能力を養う。

日本語能力検定のN2、N1、ビジネス日本語能力テスト、TOIEC等の語学の資格やCAD、簿記検定等の実務直結型の資格を取得する。

中小企業にも目を広げ、短期・長期のインターンシップを経験することで、日本の職場を体験し実務経験を積むことが可能。

人材派遣サービス会社の活用の検討も有効である。派遣は留学生の就業ニーズとも相性が良い。

留学生本人の努力と学校のサポートによって日本企業での働き方の理解を深め、必要な知識・スキルを身に付けることが留学生の就職数増加に繋がる。

《第2部「就職活動と日本で働くことについて」》

(株) オーレック ダルメンドラ・クマル氏

インド出身・2005年デリー大学商学部卒業後、2009年来日。2009年日本語学校入学、2011年卒業。2012年外語専門学校にて日本語を更に学び、2013年西南学院大学大学院入学、2015年卒業。現在は福岡県八女市の農業機器メーカーに勤務する。

就職活動のやり方は日本人の院生仲間が教えてくれた。マイナビ、リクナビに登録し、最終的に4社から内定を得た。留学生にとっては、どこでどうやっどどの会社に対して活動したら良いのかわからない。マイナビ、リクナビの登録は、日本語で書くところが多いが、日本で就職するには会話も出来なければならない。

就職活動における日本と海外の大きな違いは、日本では必ず筆記試験があるということ。自分も20~25社を受けたが、業種によっては見たことがない単語も出

	<p>てきた。また、グループディスカッションの対策も必要であると感じた。そして、日本では内定が出るまでに、いくつもの段階があることも大きな違いであると感じた。</p> <p>4社内定した会社の中からオーレックに決めたのは、社長の人柄と海外展開の構想。社長と直接話をして、自分が信頼されていると実感した。そして、自分のやりたいことが出来、自分に一番合っている会社だと思った。農機はこれまで勉強してきた専門ではないが、海外での事業展開を本気で考えていて自分の力を活かせる職場だと感じた。福岡県八女市に本社を置く従業員270名の会社だが、自分は初めて採用された外国人。入社してから、現場を始めとして様々な研修を受け、現在は貿易関連の業務を担当している。会社の今年の売上は100億から107億へと順調に伸びており、優良なメーカーである。</p> <p>自分はこれまで留学生会の会長職や様々なイベント企画など、就職するまでにボランティアや国際交流といった様々な活動をしてきた。これらの活動のお陰でコミュニケーション能力も高まり、地域との繋がりも出来た。様々な活動に積極的に関わることが就職にも役立ったため、是非後輩にも勧めたい。</p> <p>《第3部 情報交換会・質疑応答》</p> <p>質問) インターンシップはどのように実施されるのか。どのような能力や要件が必要か？</p> <p>回答) ワールドインテック社の場合は、東京で長期休暇の際に1～2週間で実施。他のグループ会社も受け入れている。採用意向がある企業からは、正規採用の前に来て欲しいというニーズもある。</p> <p>質問) インターンシップは無償なのか？</p> <p>回答) 無償の場合も有償の場合もある。留学生の場合は、アルバイトの時間制限にかからないよう配慮されている。</p> <p>意見) 現在の留学生の現状を知って欲しい。自分の担当のビジネスクラスは、17名の留学生のうち4名しか就職が決まっていない。コミュニケーションやビジネススキルも教えているが即実践に役立つまでには至らないのが現状。</p> <p>質問) 現在はネパール、ベトナムからの留学生が多いが、今後インドからの留学生も増加するか？インドへの説明会は効果があるか？</p> <p>回答) インドでは、日本のスズキなど日本メーカーのシェアが高い製品も多く、日本企業のイメージは良い。福岡への留学生も増えてきている。これから増えるだろう。</p> <p>意見) 企業の採用担当者として、留学生の採用面接に際しては、服装の指導もしたほうが良い。ネパール人の黒ネクタイは日本では馴染まない。</p> <p>質問) 専門学校からの専門士として、人材派遣サービス会社へ就職する場合のビザ申請はどのようになるのか？</p> <p>回答) 人材派遣サービス会社で派遣された先の業務内容で申請する。</p> <p>意見) 採用する企業として就職説明会で話をする事は、「日本で仕事をする覚悟」があるのかということ。面接のノウハウの前に、「日本が好きで日本で働く覚悟があるか、社会人としての心構えができているのか」を指導してもらいたい。</p> <p>・ 終わりの挨拶</p>
<p>成果と課題・今後に向けて</p>	<p>有意義な内容だったという評価の一方で、「企業が採用に踏み切れない理由」や「留学生の日本企業で働く覚悟」について、調査に基づいた情報がほしいという意見もあった。</p> <p>実態調査などを踏まえた情報提供が、今後も必要であると考えている。</p>

研修等名	4. 留学生向け就職説明会
開催日時	平成28年2月4日(木) 13:00~16:00
開催場所	博多スターレーン
次第・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業ブース出展 ・行政書士による就労ビザ相談 ・キャリアコンサルタントによる就職相談 ・ビジネスマナー講座
受講者 (参加者)数	留学生 約300名
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は企業29社のブース出展 ・就労ビザ相談、就職相談窓口も空くことなく、常に学生が相談に訪れていた。 ・ビジネスマナー講座では、身だしなみのポイントや挨拶やコミュニケーションのコツなどの講義、丁寧に指導されていた。 ・先輩留学生のメッセージDVDでは、日本語の会話に対して、英語の字幕をいれて、先に就職をして活躍している先輩留学生の様子を紹介する情報を流した。学生はブースの待ち時間の間に熱心に鑑賞していた。
アンケート 結果	別添のとおり
成果と課題・ 今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は、在福のテレビ局2局、新聞社2社が取材に訪れ、外国人就労のメディアの関心の高さを実感することができた。 ・昨年度と比較しても約1.5倍の留学生が来場し終了時ぎりぎりまで企業説明を受けていた。 ・今年は昨年よりも参加企業が6社多く29社となり盛況であった。 ・特に観光系企業に学生が集中していた。

2. 採用マッチングプロジェクト

活動名	採用マッチングプロジェクト
開催日時	平成27年9月1日(火)～平成28年2月29日(月)
開催場所	企業、学校
内容	福岡県中小企業経営者協会連合会との協力により、学校及び中小企業の留学生に関する個別ニーズ調査を行い、そのデータベース化による情報をもとに、福岡県中小企業経営者協会連合会による留学生カウンセリング、学校・企業への訪問により、採用に向けたマッチングの取組を行う。
訪問数	学校訪問 6校 (留学生 70名) 企業訪問 43社
実施状況	<p>《留学生の状況》 留学生を受入れている福専各会員校は40校程度ある。ただし、多くの学生が所属しているのは日本語コースがある学校であり、技能を学ぶ専門学校に所属する学生はまだ少ない。 よって、専門学校で学んだ知識をもとに就職することよりも、留学生が母国で学んでいる専門を用いて就職できるのではないかという仮説をもとにマッチングを行った。</p> <p>《企業の状況》 留学生の採用を希望する会社も大きく区分すると2通りあり、会社の経営戦略上特定国の留学生が欲しいという場合と、日本人が採用できないから留学生でも構わないという場合がある。今回は、企業の求める人材が明確な前者を中心にマッチング活動を実施した。</p> <p>《マッチングの状況》 まず、留学生を採用したい企業開拓へ取組んだ。福岡県中小企業経営者協会連合会では、日本人学生が中小企業へ就職するように採用促進活動を実施しており、その企業の中で留学生を採用したいという声を集めた。また、会員企業へ取組を周知することで、留学生の採用に積極的な企業の発掘を行った。合計で43社から聞取りを行った。 また、留学生が多く在籍する学校を中心に訪問し、履歴書の提出を求め、語学だけでなく就労許可書が下りる学生を探し面接を複数回実施した。</p> <p>《マッチング結果》 実際に企業面接を行った回数は8回であり、実際に2社で内定となった。ただし、2件とも後日内定取り消しとなった。一つは経営戦略の変更で該当国へ進出する可能性が無くなったため、留学生の就職も取り消しとなった。もう一つは該当企業様が就労許可書の申請を取り下げることになったため。</p> <p>《翌年度以降について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の開始時期を日本人学生と同じタイミングで実施する ・就職できる可能性がある学生の情報は中・長期的に学校と共有する